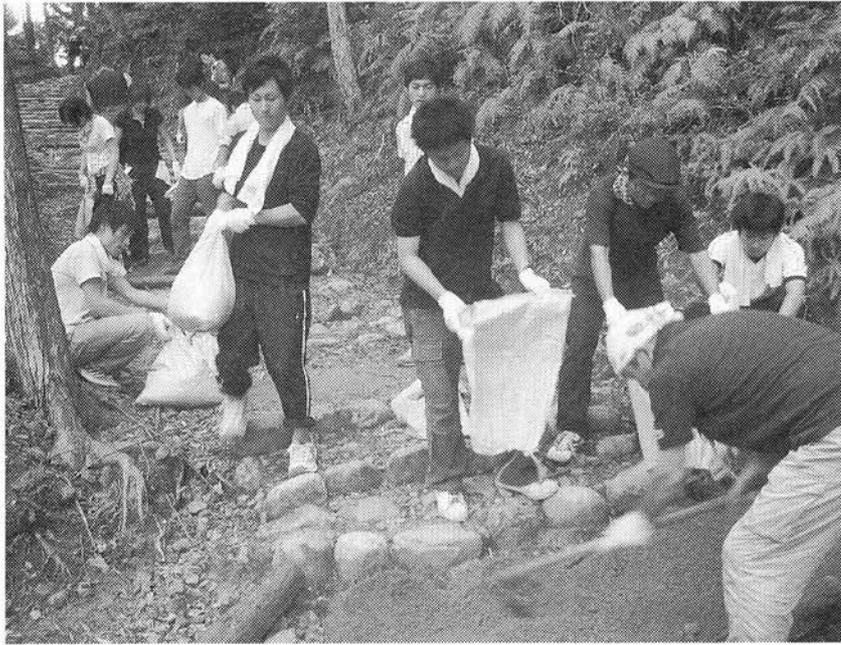


熊野古道の保全に参加

関西電力労組 歴史や景観の講義も



熊野古道を歩きながら土を運び、削れた部分を埋める参加者ら
(田辺市本宮町で)

田辺市本宮町

田辺市本宮町の熊野古道で9月29日、関西電力労働組合(大阪市)の社員約100人が古道の保全活動に取り組んだ。2時間ほどかけて、雨水などで表土が流れて削れてしまった場所に土を入れて補修した。

同組合は2006年3月から、社会貢献活動として、入社2年目の社員を対象にした社員研修に、熊野古道の補修作業を取り入れている。

この日は水呑王子―三軒茶屋跡付近(約3キロ)で作業した。参加者は2つの班に分かれて、それぞれの集合場所からビニール袋に入れた土を運んだ。県世界遺産センター職員らの指導を受けながら、古道のえぐれた部分に土を入れ、踏み固めて補修した。28日には熊野古道の歴史や文化的景観について講義を受けた。大阪府豊中市から参加した今井由香里さん(23)

は「土を運んでいる間は重くて大変だったけれど、踏み固めて補修した様子を見たら世界遺産の保全に携わったやりがいを感じた。和歌山の自然の大きさにも触れることができた。また訪れたい」と話した。